



414
A 819
4



秋派才一号ノ電書

馬尼刺及香港派遣才十回報告

米軍才二次輸送兵八十六日ニ着シタルヲヤイナ号及
十七日ニ着シタルズイラシデヤコロン及セ子トル(前回
千九百人ヲ割載シ未レリ而シテ十九日午前迄ハ未ダ上
陸ヲ為サザリシ米軍ニ從軍視察ヲ依頼ノ為ノカビ
テニ赴キタル時澤砲兵大尉ハ才一次輸送ニシテ到着ノ
必將ヲシダソンニ面會シタリトテ其云フ所ヲ聞クニ才
二次輸送ノ陸軍ハ上陸ヲ急ガス才三次若クハ四回
將軍着ヲ待テ動カントスルモノ如シト然レモ不日對
岸ニ野營演習ヲ為ス豫定ニ付キ其竹即ハ時澤
大尉ノ未觀ヲ承諾スベシト云ヘル由
思フニカビテ造船廠内ニハ最早多數ノ兵ヲ入ルノ餘



地モナカル可ク自ラ野學ノ必要ヲ感スルナラシ乎又彼
レノ対岸ト称スガボテ河附近ナルノ十九日朝ヨリポスト
等ノ同地附近ニ碇泊スル等ノ舉動ニ徴シテモ之ヲ
推知スルヲ得一也

一軍艦退速入港ノ際持来リタル新聞紙等ニキエバニ於
ケル西國艦隊全滅及ブリリッピン群島ニ向ヒタル西國艦
隊呼戻等ノコトアルニ係ラスヨリニ於テ西人ハ應接艦
隊及陸軍ノ到着ハ今日ノ内ニアルヲ聲言シ十八日夜群
島總督オースグスケンハ使ヲ我領事館ニ送りロイター
電報ノ在スベカラサルヲ説キ現ニ浪速ノ便ニテ達シタル報
ニ接軍ノ到達ス可キ事實ヲ確取シタリト申越サリ云フ
二十九日本艦ヲコニラヲ出タセルト云フ及徒ノ旗章ヲ
掲ケタル小汽艇本艦ニ寄り吳諾ヲ能クスルノ土人(護照)

一名本官ニ面會セシトテ亦依テ之ヲ引見セシニ彼レハ
コニラヲル、アギナルドノ使者九者ヲ陳ベ且ツ同伴ノ一人ヲ
香港迄便乗セシメラシメテ請フ依テ本官ハ之ヲ承諾
スル能ハザル者ヲ陳ベ外國人ニシテ是ハ帝國軍艦ニ便
乗セシメザル可クナルモアル場合ナキニ非ズキモ斯ク如キ
場合ニハ必ズ帝國領事ノ請亦及ヒ照明ヲ要スルキ
モノナルヨリ告ケ退艦セシメタリ聞ク慮ニ依ルニ此者ハコ
ニラドノ部下ニシテ外交ノ事ニ當ルモノハ所謂外務大臣
某ノ可シト云フ

七月初旬オーストリア海軍艦ノ舉動及米艦ヲ
レイ及マンエルドニ圍スル消息ハ同日十三日頃ノ香港新聞
聞ニ記ルルガ事實ニシテ此時米艦ニ一千人ノ及徒使
乗セシメタリト云フ其後米艦ヲクロックヨリ獨艦ニ停止

セシノシ高ノ砲聲ミタリト云フ説アリトヨシラシ在泊中此事
ヲ聞クヲ得ガリシ蓋シ亦九回報告ニ記スル協檢問題
等ニ徴スルモ未獨艦船ノ間ニ多少ノ衝突アリシハ疑ヲ
容レリ許アリト云フ

一本月廿日ヨシラシ砲河中俄國艦隊ヨシラシヨリ同國々祭
日ノ通知ヲ得タルニ依リ午前八時ヨリ日没迄滿艦砲ヲ
爲シ正午ニ止ニテ後ノ砲聲ヲ施行ス前報告ニ記入漏レ付
テニ報先ス

一前回報告後ヨシラシ出發迄ニ於ケル状況記事左ノ如シ
十七日午前十時十分前後ノ汽船一隻ヨシラシニ入港
午後一時

一四又ノ及後汽船ライスター一隻ヲ曳キ
ブラボン附近ヨリ出テ三時ヨシラシニ入ル
四時 浪速入港

五時 ヲシラシ方面ニ砲聲ヲ聞ク

七月十八日午前對ヨシラシ方面ニ當リ時々砲聲ヲ聞ク

午更時四五分市街東方ニ當リ火筋ノ揚
ルヲ見ルニ至リ時々砲聲ヲ聞ク土時頃マム
明日香港ニ向ケ出帆ニ付郵便物ノ依托ニ應ス
ル者ヲ各外國軍艦通知ス

七月十九日午前五時ヨリ六時頃ニ到ル間サセタチ方面ニ砲
聲ヲ聞ク

七時二十分米艦ボストンヨシラシ河ノ沖ニ来リ投擲陸
軍兵上陸準備アラシクコレイ又同所ニ在
リ

八時三十分トシラシ方面ニ火災起ル
ヨシラシ方面ニ砲聲ヲ聞ク

一 喫ノ友徒汽船ヲライクニ三更及米ノ汽船
一曲又チ曳キカビテヲ出テ港ノ北方ニ航ス
午後四時十分ヲコラテ地方ニ銃砲声アリ

又米國汽船大形ノライクニ五更又チ曳キカビテ
シノ碇泊セル所トカビテノ間ニ往復スルヲ
見ル

二時十三分本艦香港ニ向ケ抜錨

二時廿分莫帆船一更入港カビテニ航スルニ遇テ米
艦ヲカロックカビテヲ出港ニ志帆船ニ會
スルヲ見ル

四時五分コレキドルヲ距ル凡ソ三哩北ニ本艦ノ達セ
シトスルハ友徒ノ汽船一更人員ヲ滿載
シ入港スルニ遇テ

四時四十分友徒ノ小汽船端艇一隻又チ曳キカビテ
スヨリ入港スルニ遇テ

一 客月廿四馬尼刺、發前夜三十日迄ハ毎日午後三時
新西ノ風アリ波浪高カリシガ本月百以迄東方若クハ
南方北方ノ輕風ノミニシテ波浪起ルコトナカリシ 然レモ
日ニ多クノ驟雨アリ時トシテハ然レ太陽ヲ見ルコトナキモト
モアリシ

一本艦ハ本月十九日午後ヨリ港同セ前午後香港入港
スヨリヨリ香港ニ至ルノ航海ハ晴天ニシテ東若クハ
東偏南ノ微風アリ海上ニ平穩ナリシト虽モ寒々汗ハ八
拾四度乃至十度間ニテ通風不充分ノ為ニ凜力
ヲ保ツニ困難ヲ感シタルコトアリシ晴雨針ハ二十九
三乃至三〇〇ノ間ヲ昇降セリ

シヨコラヨリ香港へ回航ノ際便乗ヲ許シタルモノ左ノ如

本人等ノ請求ニ依リ陸軍歩兵少佐明石元二郎

領事ノ照會依リ避難人 神山辰次郎

一本艦石炭及罐水積載ノ後未ル廿五日澎湖島へ向

ケ出港豫定

右報告候也

明治三十一年七月廿二日 秋津洲艦長齋藤守夏

海軍大臣侯爵西郷從道殿

適子秀港入港ノ際判規ノ皇禮砲及英國海鎮司令
官ニ対スル禮砲等式ノ如ク施行セリ當時在泊ノ軍艦ハ
ロミゴビニグミツアテマールノ外ヨラクリキリ(修理中)及コッ
ドポールニミテ独艦ヲモラヒハ昨日英艦ヲロパールハ全
速カニテ昨日孰シモヨコララヘ向ケ出帆ノ由

一、... 香港 (面...)

人... 請... 取... 正... 部

... 水... 部

右... 部

... 部

... 部

... 部